

大型クラゲの出現状況(国際フェリー調査結果等)について-第3報-

1. 大型クラゲの出現情報

(1) 東シナ海における調査船による目視調査結果^{※1}

① 実施期間 令和6年7月22日～28日

結果 東シナ海西部の5地点での出現量(平均密度) 0個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(0.003個体/100m²)より少ない。 〕

(2) 対馬海峡における国際フェリー(博多-釜山航路)による目視調査結果^{※1}

① 実施期間 令和6年7月30日

結果 対馬海峡東水道で3個体(傘径40cm)、西水道で287個体(傘径20～90cm)を目撃した。東水道における出現量(平均密度) 0.00013個体/100m²。
西水道における出現量(平均密度) 0.0359個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(対馬海峡で目撃されなかった)より大幅に多い。 〕

② 実施期間 令和6年8月20日

結果 対馬海峡東水道で1個体(傘径50cm)、西水道で1個体(傘径50cm)を目撃した。東水道における出現量(平均密度) 0.00004個体/100m²。西水道における出現量(平均密度) 0.00013個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(対馬海峡で2個体確認)と同じ程度。 〕

※1. 国立研究開発法人水産研究・教育機構が実施。

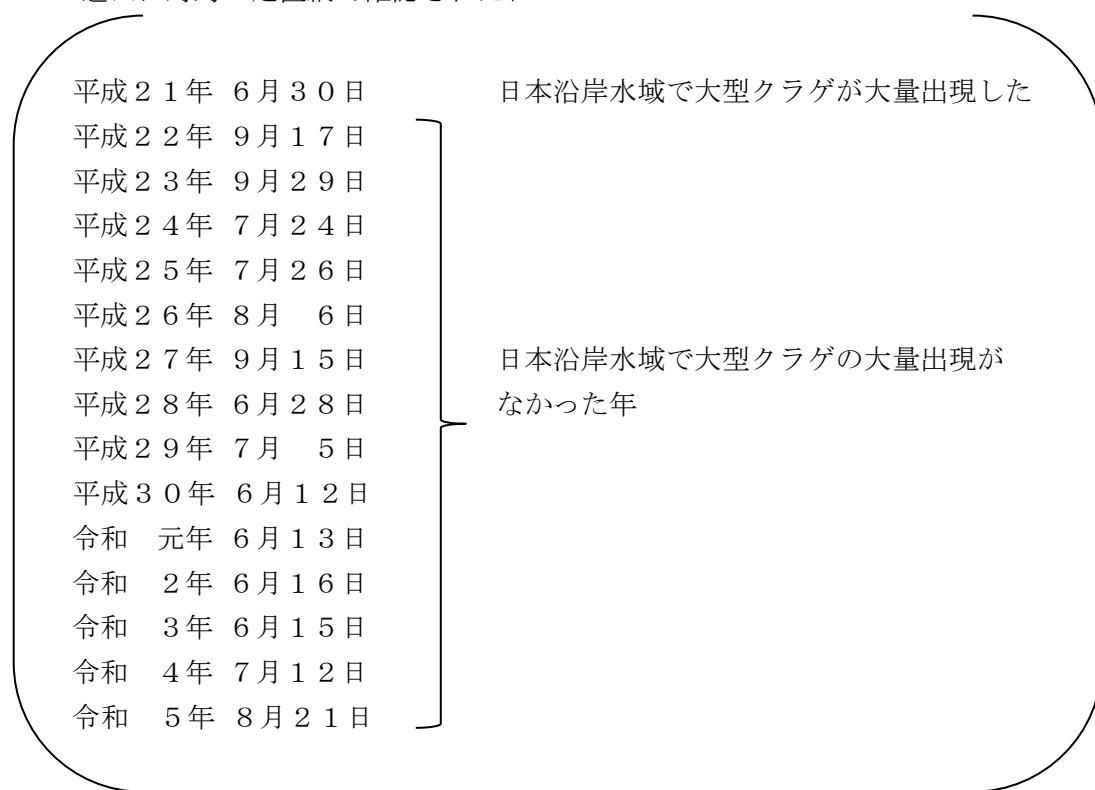
(3) 日本沿岸水域における出現の確認^{※2}

- ・令和6年6月24日に長崎県対馬市峰町津柳(500個体、傘径30～60cm)、豊玉町志多浦(2,000個体、傘径10～30cm)、同町廻(20個体、傘径10～30cm)、巖原町豆敷(30個体、傘径10～30cm)、上対馬町西泊(1個体、傘径20cm)で出現を確認した:対馬の定置網で今年初めての出現。
- ・令和6年7月8日に山口県長門市通定置網(7個体、傘径30～50cm)、萩市江崎定置網(6～10個体、傘径30～50cm)で出現を確認した:本州の定置網で今年初めての出現。

- ・令和6年7月10日に島根県隠岐の島町西郷地区定置網（10個体、傘径50～60cm）、五箇地区定置網（200個体、傘径50～60cm）で出現を確認した：隠岐諸島の定置網で今年初めての出現
- ・令和6年7月17日に京都府伊根町新井定置網（10個体、傘径50cm前後）、浦入定置網（1個体、傘径50cm前後）で出現を確認した：丹後半島の定置網で今年初めての出現
- ・令和6年7月21日に福井県越前町定置網（2個体、傘径50cm）で出現を確認した：若狭湾で今年初めての出現
- ・令和6年7月28日に新潟県佐渡市達者沖定置網（4個体、傘径52cm）で出現を確認した：能登半島より東方で今年初めての出現
- ・令和6年8月21日に北海道島牧村定置網（1個体、傘径60cm）で出現を確認した：北海道で今年初めての出現
- ・令和6年8月26日に青森県八戸市深久保定置網（6個体、傘径40～80cm）で出現を確認した：太平洋で今年初めての出現

※2. NPO 法人水産業・漁村活性化推進機構の委託を受けて、一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた情報による。

過去に対馬の定置網で確認された日



2. 今後の調査計画等

東シナ海の調査船調査では、7月の出現量は昨年同様低い傾向でした。但し、天候の関係で調査

点が例年よりも少なく、出現傾向を十分把握しきれなかった可能性があります。対馬海峡（博多～釜山間）のフェリー目視調査は、7月下旬の調査では対馬海峡西水道を中心に大量の大型クラゲが確認されましたが、8月中旬の調査では出現量は大幅に減少しています。また、日本沿岸では、7月中旬に丹後半島に達したのち、7月下旬には例年よりかなり早く佐渡島で確認されました。その後、8月下旬に北海道及び津軽海峡を越えた太平洋側で確認されました。一方、韓国の出現状況は、8月中旬まで韓国日本海沿岸を中心に非常に高い出現が確認されていましたが、8月後半にはやや出現量が減少しています。以上のことから、8月上旬までは対馬海峡西水道を中心に大量の大型クラゲが日本海に流入していたと考えられますが、現在は新たな流入はほぼ収束しているものと考えられます。本州沿岸沿いに東に移動している大型クラゲは例年より早めに出現していますが、能登半島西岸付近から東進（北進）速度は鈍くなっており、佐渡島及び日本海東北沿岸に出現した大型クラゲは、沿岸沿いではなく、沖合から沿岸に移動してきたものと考えられます。

現在、山陰沿岸を中心に局地的に非常に大量の大型クラゲが出現し、漁業被害等が発生していますので、今後も引き続き嚴重な注意が必要です。また、能登半島以東の海域では現時点で散発的な出現に留まっていますが、日本海の沖合域には大量の大型クラゲが存在していると考えられますので、海流の動向によっては今後大量出現の可能性もあります。また、太平洋東北沿岸域においても、今後大量の大型クラゲが津軽海峡を越えて太平洋に流出することが予想されるので、十分な注意が必要です。

今後も、日本海への大型クラゲの流入量の変動把握と、日本海に入った大型クラゲの動向に注視し、引き続き日本周辺海域における大型クラゲの出現状況のモニタリング^{※3}、出現状況に関する情報提供^{※4}を行ってまいります。

※3. 主な大型クラゲ出現状況調査の実施予定（9月上旬～10月上旬）

（調査船による分布調査）

令和6年9月上中旬：日本海中部海域大型クラゲ分布調査

（国際フェリーによる目視調査）

令和6年9月上旬：博多～釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和6年9月中旬：博多～釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和6年9月下旬：舞鶴～小樽間の国内フェリーによる目視調査

令和6年10月上旬：舞鶴～小樽間の国内フェリーによる目視調査

※4. 大型クラゲ出現状況調査の結果については、以下でお知らせしております。

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

大型クラゲ関連情報 URL：

https://www.fra.go.jp/shigen/marine_environment/kurage/kurage.html

本件照会先（担当者）：

本部 研究戦略部 清水・帰山 TEL 045-277-0257

水産資源研究所 水産資源研究センター 海洋環境部 渡邊 TEL 025-228-0587